

ETロボコン2021

ETロボコンはエンジニアの人材育成と技術教育の機会を提供することを目的として2002年から開催され、数多くの参加者やスポンサー、パートナーのみなさまに支えていただき、20周年を迎えられました。

2021年は、総勢196チームが参加し、2020年に引き続き全プログラムオンライン開催となりました。オンライン会議やテレワークでの開発が浸透する中、シミュレータを活用した効率的な開発を体験する機会を提供することができました。

エントリークラスには全国47チームが参加し、ソフトウェア開発・設計の初心者とは思えないハイレベルな闘いが各地区で繰り広げられ、大会を大いに盛り上げてくれました。

プライマリークラスからは、チャンピオンシップ大会に29チームが選出され、チームHAL大阪2(学校法人日本教育財団HAL大阪)、EMP(麻生情報ビジネス専門学校 電子システム分野)が、観客を驚かす走行を見せ、競技同率優勝となりました。また、MSモード2(三井住友海上火災保

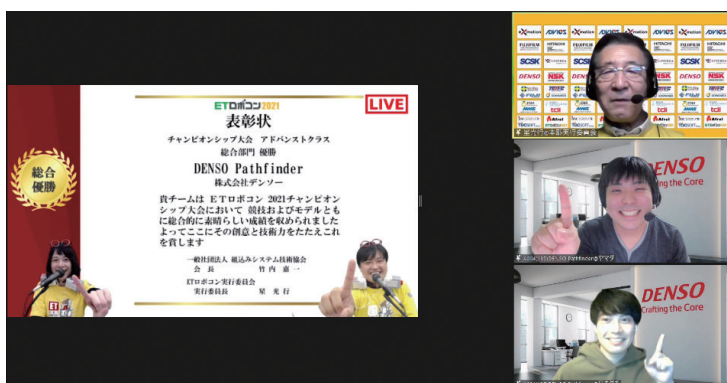
険株式会社IT推進部)は、そうそうたる組込み系企業を押さえ、競技第3位とモデル大賞を受賞し、注目を浴びました。ETロボコンが様々な業界へと広がり、人材育成に大きく貢献できる可能性を感じるとともに、2022年は組込み系企業のリベンジを期待しています。

アドバンストクラスでは、10チームがチャンピオンシップ大会に選出され、DENSO Pathfinder(株式会社デンソー)が総合優勝を勝ち取りました。ソフトウェア開発スキルの高さに加え、モデル(設計)部門での高い評価が功を奏した結果となりました。株式会社デンソーの活動は以下の記事にまとめておりますので、ぜひご覧ください。

https://www.etrobo.jp/denso_part1/

https://www.etrobo.jp/denso_part2/

ETロボコン2022では、オンラインとリアル両方を活かした競技会を実施予定です。オンラインとリアルを組み合わせ、パワーアップした大会を開催いたしますので、ぜひご注目ください!



主催イベントレビュー

DXイノベーションチャレンジ

DXイノベーションチャレンジとは、「DXによる、新価値創出とビジネス実装を推進できる人材育成プロジェクト」です。「サイバーフィジカルシステムにより経済発展と社会的課題(SDGs等)の解決を両立する人間中心の社会の実現を目指すためのイノベーション」にフォーカスを合わせ、育成プログラムを通して獲得した知識や考え方を活かし、新規ビジネスの企画・立案にチャレンジします。

2020年に引き続き、新しい生活様式の中での全プログラムオンライン開催となり、2021年は計27チームがエントリー、書類審査と公開プレゼンテーション審査を通



オンライン参加と会場参加が3チームずつ

●ファイナル進出チーム ※登場順

チーム名/所属名	「企画タイトル」
1. スマートジスク/ジスクソフト(株)	「防災意識を 価値に変えるスーパーアプリ」
2. Chelsy/株式会社エクスマーシオン	「マイナー」
3. BITS5.0/(株)ビッツ	「学ぶ公園×繋ぐ公園 One Park〜わんぱく〜」
4. TMD's/(株)日新システムズ	「ふぁんりこ♪」
5. 同志社大-UAC/同志社大学/(株)ユビキタスAI	コーポレーション「DXによる働き方イノベーション」
6. Eagles/早稲田大学	「話し合いで協力する社会 ~Life at Discussion Society~ 『KiKi(キキ)』」

過した6チームがファイナリストとして、パシフィコ横浜で開催された「ET&IoT展」で、リアル会場とオンライン会場の両会場から、熱いプレゼンテーションを繰り広げました。

優勝チームのChelsyは、「大好きな場所はこれからも、ずっと元気でいられますか?」をテーマに地元愛を通して、地域と旅行者を直接つなげ、一緒に楽しむ共創する町おこし企画である「マイナー」を企画・立案しました。地元の人は「地元愛」を発信し、旅行者はその情報を元に「観光大使」として末永くお付き合いすることで、食や宿泊をはじめ、旅行のあらゆる体験を交流重視のサービスとして表現したことが審査員から大きく評価された点でした。

チームメンバからは、「春からずっと、みんなで考えてきたことをこうやって形にした優勝できてとてもうれしいです、この活動を通



審査員も会場とオンラインから参加



してとてもよい経験が出来ましたし、たのしかったです」とのコメントが寄せられました。

今回、DXイノベーションチャレンジに参加したチームにヒアリングしたところ、チーム活動での「アイデア出し」や「企画の検討」に苦労したとの声もありましたが、「新しいビジネスの企画を考える」という今までに経験がない中での学びを前向きに捉えつつ、早くも2022年への参加を匂わせ、リベンジしたいとの前向きな意見を多く頂戴しました。最後になりますが、このDXイノベ



優勝チームChelsy



準優勝チーム同志社大-UAC

ションチャレンジに参加したチームの企画から社会実装されるアイデアが出ることを期待しています。

現在、2022年度に向けリアルな体験の重要性な形の開催を企画中です。2022年2月頃に開催発表会を予定していますので、ぜひチェックしてください。

審査員・参加者全員で記念撮影

